
生死への問い

にやるら

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

生死への問い

【Nコード】

N2014BA

【作者名】

にゃるら

【あらすじ】

男は難病を患っていた。そんな男の前に神様が現れて…

(前書き)

二作目です。

前のやつよりも短いです。

海岸に、三十代半ばぐらい男が居ました。

男は海を見ていました。その瞳はどこか切なく、表情も悲しげでした。

男は、難病を患っていたのです。

寿命はもつてあと三ヶ月、と医師に申告されていました。

彼は考えました。

自分はこのまま死んでしまうのか、と。

そのとき、男の前に神様が現れました。そして神様は男に尋ねました。

死にたくないか？

男はすぐに答えました。その問いへの答えなど決まっていたました。そんなの、死にたくないに決まっているだろう、と。

ならば永遠に生き続けるか？ 神様はそう言いました。

男は否定しました。

永遠になど生きたくはありませんでした。愛する人や、知り合いなどが亡くなってしまっても、それでも生きなくてはいけないからです。たとえ、人類が滅びたとしても いえ、彼が生き残ってしまつのですから人類は滅びはしないでしよう。ですが、そうなら、永遠に一人で生きなくてはいけなくなってしまうのです。

矛盾している、神様は言いました。死にたくないのなら、ずっと生きるしかない、都合の良い時に死のうだのということは許されない。

もう一度聞く、永遠に生き続けるか、それとも死ぬか。神様が尋ねると、男は悩みました。

男は死というものを恐れてはいませんでした、自分が死ぬことよって、自分の大切な人が傷つくのを恐れていました。男には妻と子供という大事な家族がいたのです。男は悩みました。自分が死んでしまったら、妻や子供が悲しむ、それに、迷惑をかけてしまう。それだけは防ぎたい、そう思いました。たとえ自分はどうなってもいいから、妻と子供だけは守りたい、と。

でも、永遠に生きること、自分はそれに耐えられるのか？ 男は考えます。

たとえ自分が発狂しても、何をしても、死ねないのだ。そんなのは……。

そして悩んだ末、男は口を開きました。

(後書き)

この後のことは、一応考えてはいたのですが、あえてこんな感じにしてみました。
いかがでしたでしょうか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2014ba/>

生死への問い

2012年1月5日00時45分発行